

堤防の出入口「樋門」

堤防ができると、洪水はあふれにくくなりますが、人が暮らす側の水を排出することもできなくなります。そのため、堤防の下を通してトンネル水路をつくり、水を川に流します。しかし、水路があるだけでは川の水が増えた時に逆流してきます。そこで、このトンネル水路に逆流防止用の門扉（ゲート）をつけます。こうした施設を「樋門」といいます。



畑からの排水

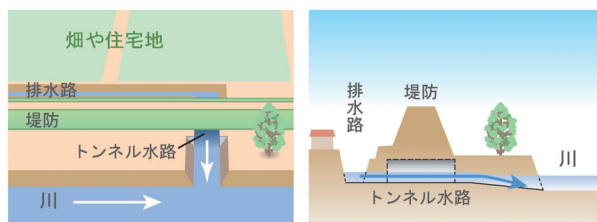


樋 門

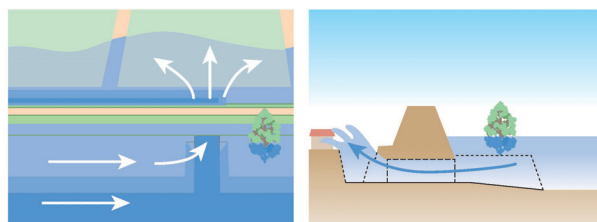


増水時の樋門。水中で門扉閉鎖

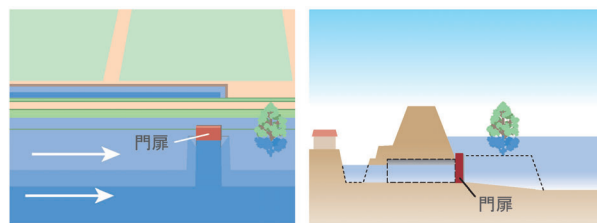
樋門の役割



排水路の水は、堤防下の水路を通して川に流れ込む



増水時、水路から水が逆流するおそれがある



門扉を閉じることで逆流を防ぐ

内水対策施設

排水先の川の水位が上昇したり、それに合わせて樋門を閉じたり、また、流入河川や排水路の能力を超えたりすると、人が暮らす側の水（内水）が排出できなくなってあふれだします。これを「内水氾濫」といいます。

こうした内水による被害の防止や軽減のため、内水を固定式の大型ポンプを用いて堤防を超えて強制的に本川へ排水する施設を「排水機場」といい、同じ役割を持ち排水機場ほどの規模は必要ない施設を「排水ポンプ場」といい、さらにそれより規模が小さい施設を「救急内水排水ポンプ場」といいます。



H28 帯広市内排水作業

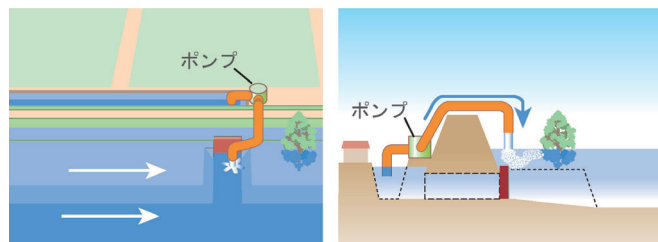
固定式の大型ポンプ



排水機場



排水ポンプ場



内水をポンプで排出する

釜場

洪水の状況に応じて排水ポンプ車によりポンプを搬入・設置し、堤防を超えて本川に強制排水することができる場所です。過去の実績から比較的内水が溜まりやすい場所を選定して建設しています。



H28 排水ポンプ車による排水（左：市街地側、右：川側）